

情報連絡員報告・3月分

非製造業の売上高DI値が大幅に好転し、プラスへ

< 東京都中央会 >

3月の情報連絡員報告によると、製造業・非製造業ともに収益状況と業界の景況DI（前年同月比）値が好転、売上高は製造業が若干悪化したものの、非製造業は20ポイント以上好転し、プラスに転じた。「業界の声」からは『年度末に向けて、組合員の脱退が増加し、今後が懸念される』という意見や、先月に続いて改正中協法について、『決算関係書類等の作成・手続き変更への対応が困難』とする意見が多数寄せられた。製造業65人、非製造業85人、計150人の集計

業界の声

特記事項欄より

「繊維・同製品」

- 花粉症対策のためのツバ広の帽子が好調。ついで紫外線対策のためのUVカット商品が順調。（帽子製造業）

「出版・印刷」

- 18年度は128社の脱退があった。そのうち倒産・廃業によるものが3割近くをしめる。今回の中協法改正による共済事業への規制で事業が実施しづらくなり、組合の魅力が失われることが懸念される。（印刷業）
- 年度末にあたり、組合員の脱退が相次いだ。18年度は7社が脱退。新年度予算にも影響が出そうだ。（シール印刷業）

「卸売業」

- 暖冬の影響で重衣料(コート)を中心としたニット製品の売上が減少した。セーター等、売上が増加した品物もあるが、全体としては厳しい年度末となった。（織物卸売業）
- 新規オープンのホテル・レストランでは取引先の選択をインターネットによる入札で決定するところが多く、企業の歴史や規模等を度外視しての取引が行われており、業界も混迷を深めている。（食肉卸売業）

「小売業」

- 年度末に向けて組合脱退者が相次ぎ、歯止めがかからない。理由としては後継者不足・ネット販売やホームセンタ

一等への対応ができず、ギリ貧におちいり廃業にいたるものが多い。

(包装材料小売業)

- ・組合員個々の販売・収益状況は個人消費の低迷により著しく悪化し、また仕入についても大手ディラーの囲い込みで苦戦している。(中古自動車小売業)
- ・原油価格の乱高下、石油製品の需給の乱れ等から末端市場では価格競争が激化し、そのことが極端な収益低下・大手資本との格差を招き、本年も90を超えるガソリンスタンドが廃業し、都内のスタンドはピーク時の6割が姿を消した。

(石油小売業)

< 要望事項欄より >

- * 中協法の改正で決算関係書類作成が流動的となり、矛盾が生じているように思

える。提出先の所管行政庁はどこまで現況を把握しているのか、疑問である。

(帽子製造業)

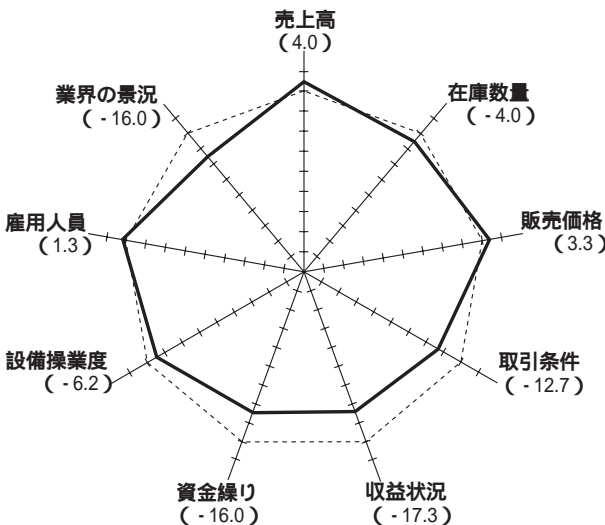
- * 組合制度改正による決算手続きでは組合事務局に時間がなすすぎる。改正案を作成する側は机上での検討だけではなく、現場の状況を把握してほしい。

(家具卸売業)

- * 改正された組合制度への対応に苦慮している。なぜ、このような改正がされたのか、理解に苦しむ。(古書籍小売業)
- * エコ対策で大豆が燃料として消費されたことにより、輸入大豆が高騰している。全国の豆腐生産がまかなえる量の国産大豆の増産を希望する。

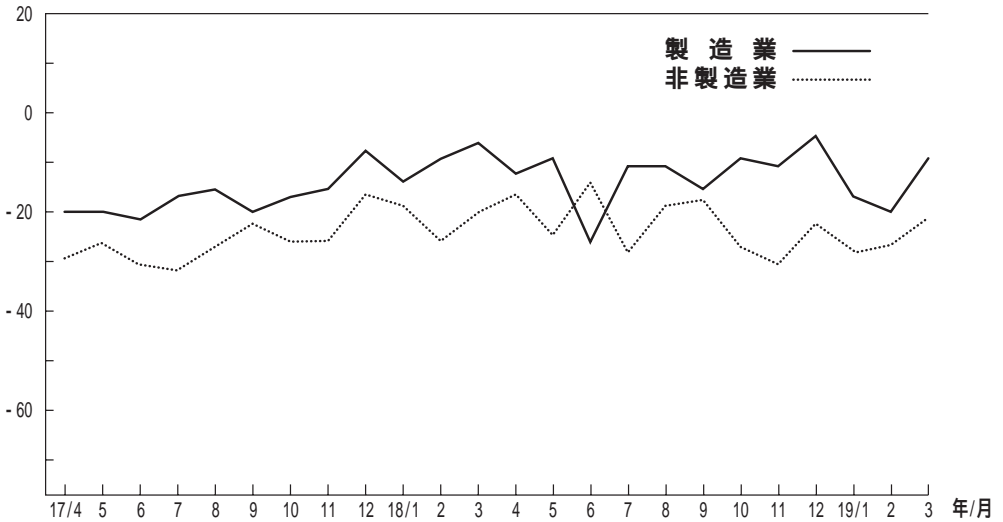
(豆腐小売業)

3月のレーダーチャート(全産業、前年同月比DI値)

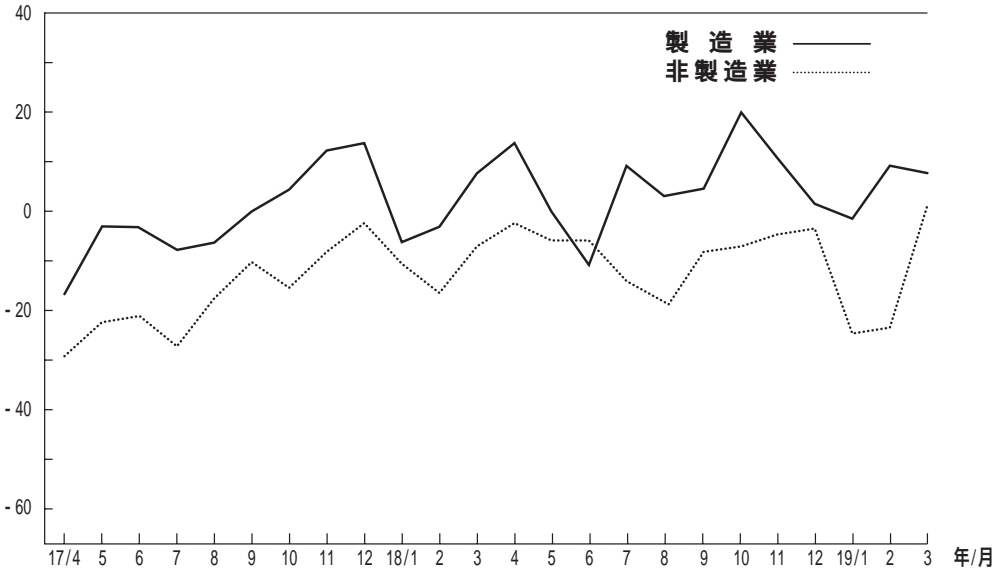


(注)点線の9角形が「DI = 0」を示す。したがって、点線の内側は「減少」「低下」「悪化」、外側は「増加」「上昇」「好転」となる。

業界の景況DIの変化（H17.4～H19.3）
（前年同月比）



売上高DIの変化（H17.4～H19.3）
（前年同月比）



(注)DIとは、ディフュージョン・インデックスの略で、前年同月に比べ「増加」・「上昇」・「好転」したとする割合から「減少」・「低下」・「悪化」したとする割合を差引いた値である。